

# “Heart to Heart”

第7巻 第1号 (No.20)  
発行日 平成24年7月2日

心から心へ わかちあう あたたかさ

## 目次:

子どもを自然の中に	1
コラム: 出会い(3) ある医者との出会い	2
療育プログラムのように	2/3
教育と福祉の 一層の連携強化推進	4
ご案内	4

## 子どもを自然の中に

学園の幼稚園の教育方針について、北原キヨ先生が、著書『可能性を求めて』に、次のように載せています。

「当園では みんななかよし すなおなところ こんきのよさ を教育目標として、まずもって健康な体力づくりを第一の着手とし、その体力の中から、心の健全な発達をうながしていくことを願っております。」その後さらに説明を加えて、「人間は自然、季節の移り変わりの中から、いろいろなものを吸収して育っていきます。自閉症児とか障害児は、その吸収する力、適応する力が虚弱です。小さな子どもほど適応がきかないのです。となれば、頭をよくするとか、ものを覚えさせるという前に、まず自然、季節に適応する能力を育てることが大切なことになってきます。そうして組み立てたのが「生活保育」であり「生活療法」でありました」と述べています。

それで、北原先生は幼稚園開園後子ども体力づくりを励行し、青梅の河川敷に建てた山荘を利用して、全園児に山荘合宿の機会を与えていました。またご自身が東京の小学校に勤務してみて、草木の花粉にかぶれたりする体質の子が多いことも感じ、自然にふれさせながら子どもたちの健康づくりをめざしていたのでした。

今、教育センターの療育プログラム

武蔵野東教育センター所長 長内博雄

の中にも、体力づくりなどの要素を盛り込んでいますが、この療育プログラムの中では、戸外に長時間出ることにはなかなかできません。この夏休みには、ぜひご家庭のほうでお子さんを野山などに連れ出し、たくさん自然にふれさせていただければと思います。

せわしい都会の生活の中で、ハイキングに出かけたりする機会は、意識的に作り出さないとできないことですが、元々は人間の生活も自然と密接に関わっていて自然の一部であったことを思えば、発想の転換も必要でしょう。普段から日曜日などを利用して、お子さんを山や川に遊ばせることを実践されている方もいますが、そのようなお子さんは、やはり自然へのなじみ方を知らない間に身に付けています。

北原先生のことばを借りるまでもなく、子どもに野山や森また海や川などで遊ぶ経験は、身体そのものに記憶される楽しい学びになります。どうぞご家族共々自然を楽しんでください。一緒に出かけるお仲間ができれば、さらに楽しいものになるのでしょうか。保護者の皆さんにとっても、日頃の雑多な想いをオゾンいっぱいの空気で洗い流すことができれば、日常生活をリフレッシュする活性剤になるかと思えます。どうぞ、この夏を身体を使って健康的にお過ごしください。





## コラム 出会い(3)

## ある医者との出会い

一人の自閉症児の指導をどうしたらよいのか悩んでいたとき、三越診療所の広告が目にとまりました。早速、その診療所を訪ね、そこで一人の医師と出会いました。私が必死に自閉症児のことを話すので、きっとあきれられたことでしょう。とても余裕がありませんでした。どう関わったらよいのかをお聞きしました。先生からは、「自閉症と云っているが、話から考えられるのは、かなり精神発達に遅れのあるお子さんなので、そのことを考えると、日常生活の指導が大切になるのでは」といわれ、とても驚きました。当時の私は自閉症児の利発な容姿から、知的には問題はないと信じていたからです。

小林先生からは、『自閉性精神薄弱児の家庭指導』の本をいただいて帰りました。その後、研修会で島田療育園の見学に行きました。島田療育園の園長が小林提樹先生でした。それからは、目からうろこではありませんが、遅れのある自閉症児には、日常生活を中心に指導を展開しました。

ところが、突然、彼が学校をやめることになったのです。あとから分かったのですが、彼は冷蔵庫のアルコールを飲んでしまい、急性アルコール中毒で入院し、そのあと施設に入所したとのことでした。

大きな施設だったので、彼は安心

して暮らしているのだろうと想像していました。しばらくしてお母さんから、入所後1か月はほとんど食事をとらないでいたため、入院したという報告を受けました。施設を何度か訪れましたが、彼はいつも外の作業で、会うことができませんでした。お母さんに連絡を取った時には、すでにお母さんは亡くなっており、彼も他の施設に移っていました。彼との出会いが、その後の私の生き方を決めたとはいっても過言ではありません。今日まで、自閉症の人たちを愛らしく思えることに感謝しています。



## 療育プログラムのようす

このコラムは4回シリーズでお届けします

**アート教室** 毎回最初に模写トレーニングをしています。図案は、子どもたちから「これが描いてみたい!」とリクエストのあった動物やキャラクター、建造物などの中から決めていきます。実際に手本を見ながら描いてみると、「ああ、何だかニュースタイルのになっちゃった」と、思ったように描けないもどかしさを感じつつ、一生懸命に形を捉える練習をしています。(北川)



模写トレーニング  
「よく見て描こう!」

**ダンス教室** ヨガの動作を取り入れた体ほぐしに取り組んでいます。子どもたちにとって、ヨガのようにゆっくりとした動作をすることは意外に難しく、初めの頃は曲のテンポに合わせるのに苦労していました。今ではテンポをへびのポーズもバッチリ!つかみ、ネコやへびのポーズもバッチリ決まっています。先月から取り組んで来たスキップとギャロップもずいぶん上達し、自信に満ちた笑顔で練習に励んでいます。(新堂)



へびのポーズもバッチリ!

**SST教室** 人との関わり方や集団の中でのルールなど、さまざまなソーシャルスキルを学んでいます。1~3年生はカードゲームなどのルールのある遊び、4~6年生はテーマを決めての話合いなどを通して、友だちとの関わり方を練習しています。また、どちらのクラスもレクリエーションの時間に体を動かすゲームを行い、ルールを守って楽しく遊ぶ経験も積んでいます。(大澤)



4-6年教材 相談ゲーム

**音楽教室** 歌唱では、ほっぺや舌の体操と、母音を中心とした発声を繰り返し行うことで、それらを意識して動かせるようになりました。リズム活動では、作成したマラカスを使用して、サンバのリズムに挑戦したり、曲に合わせて動きやリズムを考え、発表したりしています。器楽では、鍵盤ハーモニカとリコーダーに分かれ、パート練習や合奏を行い、楽しみながら演奏できる曲を増やしています。(高橋)



サンバのマラカス作り

**体育教室** 今年度は、基本に戻り模倣運動に注目することにしました。特にプログラムの開始時や、新しい活動の導入時には意識して多く取り入れています。その結果、集中力が高まり、活動への取り組みがよくなりました。注目すべき人が明確であることが、子どもたちの安心感へとつながるのではないかと思います。楽しさの中にもメリハリのある支援を心がけて行きます。(鈴木)



1,2年生のボールの活動

**言語プログラム** 初回からの数回は様々な検査を中心に行い、その中で子どもたちにあった目標を立てていきます。それから、個々に合った教材を準備し、話をする、聞くことの練習をしています。また、コミュニケーションゲームとして、絵を見ながら「リンゴはありますか?」「男の子ですか?女の子ですか?」などと質問をする練習から、身近な人に自分から質問できるように取り組んでいます。(計野ち)



「さるはいますか?」



**幼児** あじさいの花がきれいな季節になりました。子どもたちも少しずつ教室に慣れ、各グループの個性が出てきました。絵本が好きなグループ、体を動かすことが好きなグループ、ゲームが好きなグループなどそれぞれです。友だちとのかかわりも出始め、「～ちゃん、こっちにおいで」「～してもいい？」などかわいらしい会話があちらこちらから聞こえてきています。さあ、9月にはどんな夏休みの話が聞けるでしょうか。楽しみです。(本田)



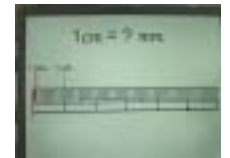
幼児 さかながいっぱい!

**1年生** 足し算の学習が始まりました。計算式に慣れるだけでなく、視覚教材を操作しながら、足し算の意味を確認しています。また、指先のトレーニングの一環として、粘土に取り組んでいます。はじめは苦戦していたものの、今では皆、「先生、今日は粘土やるの?」と、楽しみにしています。コツを掴んでくると、作品に自分なりの工夫を加える様子も見られました。(新田)



1年 カタツムリ

**2年生** 国語では、「スイミー」の学習をしています。映像や紙芝居などを使って物語のイメージをふくらませたり、出てくる生き物の特徴を文の中から選んだりして、みんなで楽しみながら学んでいます。音読では、気持ちを込めて会話文を読める子どもが増え、成長を感じています。算数は「長さ」の学習をしています。定規を使って長さを測ったり、指定されたサイズの線を書いたり、みんな一生懸命に取り組んでいます。(宮下)



2年

コン

**3年生** 国語の「いろはにほへと」では、紙芝居の挿絵がユニークなので、子どもたちはとてもいい表情で授業に取り組んでいます。「さむらい」や「とのさま」など馴染みのない言葉や言い回しが多く出てきますが、楽しみながら内容を深めています。算数の「大きな数」では、「一!十!百!千!万!……」と数を数える子どもたちの元気な声が教室に広がっています。(宮川)



3年「いろはにほへと」



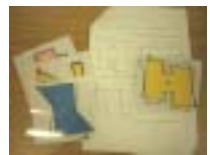
4年 聞き書き

**4年生** 国語では、聞き取りの学習を行っています。担当者の読んだ文章を聞き、内容に関する質問に答える課題と、聞き取った文章をそのまま書き綴っていく課題の2つに取り組んでいます。子どもたちは一言一句聞き逃すまいと、とても真剣な表情で取り組んでいます。この学習が、学校や家庭で活かされるように、これからも継続して取り組んでいきたいと思います(宮川)



5年 頑張って描きました!

**5年生** 「合同な図形」の学習の中で、コンパスと定規を使って合同な三角形や四角形の作図をしました。コンパスを初めて使う子どもや、円しか描けないものだと思っていた子どもなど様々でしたが、コンパスで辺の長さをとる、頂点に針を刺し円弧の一部を描く、交点と頂点を定規で結ぶという手順を追って、丁寧に作図を進めていました。コンパスに限らず、色々な道具の扱い方も、学習の一環で練習しています。(北川)



6年 点対称の学習

**6年生** 線対称・点対称の学習では、図工と連携しながら行いました。色々な形に切った図形を半分に折り、対称な軸が何本できるのか調べました。また、点対称の模型を作り、実際に180度回転させ、対応する角や辺はどこなのか、体験しながら理解を深めました。子どもたちが、「少しでもできた」「わかる」「楽しい」と感じられる活動を取り入れながら学習を進めていきます。(高橋)

**中学生** 小説や説明文の冊子を読み、原稿用紙に書写することで、改行の仕方を覚えることができました。また、自分で書いた文章を音読することで、文字を丁寧に書く意識が自然と身につけてきています。数学では、正負の数・文字と式・1次方程式と、個人のレベルに合わせて学習しています。さらに、金環日食や金星の太陽面通過など話題になる事柄を学習に取り入れています。(藤本)



中学生 冊子からの書写練習

**コンピュータ教室** タイピングの練習に重点的に取り組んでいます。ホームポジションや正しい指使いなど、基本をしっかり定着させておくことが大切です。他にも、ペイントで絵を描いたり、インターネットで折り紙の折り方を調べて折ってみたりするなど、楽しみながらコンピュータの操作に慣れていくことができるよう、さまざま活動を取り入れています。(大澤)



コンピュータ 正しい指使い



## 教育と福祉の一層の連携強化推進

副所長 計野 浩一郎

「障がい者制度改革推進本部等における検討を踏まえて障害保健福祉施策を見直すまでの間において障害者等の地域生活を支援するための関係法律の整備に関する法律について」が、平成22年11月に衆議院厚生労働委員長から提案され、同年12月3日に成立、同月10日に公布され、平成24年4月から相談支援の充実及び障害児支援の強化が図られることになりました。その通知「児童福祉法等の改正による教育と福祉の連携の一層の推進について」が、平成24年4月18日付けで、厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部障害福祉課、文部科学省初等中等教育局特別支援教育課より出されましたので、その概要について今回は紹介したいと思います。

1. 「相談支援の充実について」では、障害児支援利用計画等(障害児相談支援事業所で作成する障害児支援利用計画及び障害児通所支援事業所等で作成する個別支援計画)を作成し、学齢期に作成する個別の教育支援計画等(個別の教育支援計画及び個別の指導計画)の内容との連動をはかり、就学前の福祉サービス利用から就学への移行、学齢期に利用する福祉サービスとの連携、さらには学校卒業に当たって地域生活に向けた福祉サービス利用への移行が円滑に進むようにする。

2. 「障害児支援の強化について」には、児童福祉法第4条第2項に規定する障害児の定義規定が見直し

れ、障害者基本法や障害者自立支援法と同様に、「精神に障害のある児童(発達障害者支援法第2第2項に規定する発達障害児を含む。)」を追加し、発達障害児についても障害児支援の対象として児童福祉法に位置づけられた。また、障害種別で分かれていた障害児施設を、身近な地域で支援を受けられるようにする等のため、通所による支援を「障害児通所支援」に、入所による支援を「障害児入所支援」にそれぞれ一元化した。さらに、障害児通所支援の一つとして、学齢期における障害児の放課後等対策の強化を図るために、授業の終了後又は休業日に生活能力の向上のための必要な訓練、社会との交流の促進等を行う「放課後等デイサービス」が創設された。これを実現していくために、個々の障害児のニーズを踏まえた放課後等の過ごし方について、特別支援学校等と放課後等デイサービス事業所、保護者等との間で十分に協議するなど連携を図る。

上記1・2の改正された内容が機能し、障害児支援が適切に行われるためには、保護者や当事者の意向を汲みながら、学校と障害児通所支援事業所等が緊密な連携のための協議の場や情報共有を図るためのシステム作り、また中核となる専門家の育成など課題は少なくないように思いますが、教育と福祉が互いに連携していくことの意義は大きいと思います。

参考:文部科学省HP [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo3/044/attach/1320467.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/044/attach/1320467.htm)

### セミナーのご案内

平成24年度のセミナーを以下の通り実施いたします。まだ若干空きがございますのでご希望の方はお早めにお申し込みください。

平成24年10月3日(水)10時~12時  
「自閉症スペクトラム障害の子どもたちの  
コミュニケーション支援」  
藤野 博(東京学芸大学)

平成25年1月30日(水)10時~12時  
「障害者就労支援センターすきっぷの就労支援」  
上滝 彦三郎(世田谷区立障害者就労支援センター)



### 武蔵野東教育センター

〒180-0012 武蔵野市緑町2-1-10

電話 0422-53-8585 FAX 0422-53-8595

Email: [education-center@musashino-higashi.org](mailto:education-center@musashino-higashi.org)

ホームページもご覧ください

<http://www.musashino-higashi.org>

### 保護者勉強会のご案内

当センターのスタッフが専門性を生かして、受講者の保護者の皆さんに直接お話しさせていただく機会を設けております。平成24年度後半は以下の日程で実施いたします。

第3回 11月1日(木)10~12 大澤徹也「知能検査の見方と生かし方(新版K式、WISC- )」、  
計野ちあき「育てようコミュニケーション (語彙の拡大・ゲームを通して言葉のやりとりを学ぶ)」